

新聞ひよこ



第51号

2018.7発行

かみの診療所

〒615-8002

京都市西京区桂上野
中町175

TEL:075-394-1460

FAX:075-394-7746

E-mail:kamino@

triton.onc.ne.jp

漢方薬は副作用がなく、体にやさしいのは本当か？

所長・奥原賢二

昔から、大部分の人は漢方薬は、医師の処方する薬(いわゆる西洋薬)より副作用がなく優しいと考えていますが、本当でしょうか。

どんな薬にも副作用があります。そもそも薬と毒は良薬・毒薬という言葉があるように、その差は体に有害か害があるかの差でしかありません。これは免疫とアレルギーが外来の異物に対する生体反応を体に有用なら免疫と言い、都合が悪ければアレルギーということと同じです。例えば、同じものを表から見ると裏から見るとかという違いです。ですから、トリカブトの根の附子と言われるものは、漢方では少量使われますが、大量に使って保険金目当ての殺人に使われることもあります。つまり毒も薬も元は一緒なのです。

いろいろな副作用がありますが、代表的な漢方薬の副作用を見てみましょう。

- 1、甘草 (成分グリチルリチン酸) むくみ・高血圧・低カリウム症 代表的な漢方薬…四君子湯、大黃甘草湯、小柴胡湯、安中散など
- 2、山梔子 (クチナシ、成分ゲニポンド) 長期投与で腸静脈硬化で腹痛・下痢・腹部膨満など。代表的な漢方薬…加味逍遙散・黄連解毒湯・茵陳蒿湯など

- 3、麻黄 (成分エフェドリン) 狭心症・不整脈・頻脈など。代表的な漢方薬…麻黄湯・葛根湯・小青竜湯など

- 4、地黄 (成分カタルポール) 嘔気・胃痛・腹痛など

- 代表的な漢方薬…八味地黄丸・四物湯・温清湯など

- 5、黄耆 (成分バイカリン) 肝障害・肺障害など。

- 代表的な漢方薬…大柴胡湯・防風通
- 6、大黃(成分センノシド・便秘薬) 妊婦の子宮収縮で流産

- 代表的な漢方薬…大黃甘草湯など大黃の含まれるもの



特に5の肺障害は10万人に1〜4人と少ないですが、投与開始2か月以内での空咳・息切れが特徴とされています。その他の漢方薬でも大なり小なりの副作用はありますが、漢方薬は安全という思い込みがありますから、それを副作用と思わないという逆の危険性があります。

これとは違いますが、以前にこんな経験をしました。血尿のあることを長く腎臓外来で診ていましたが、ある時それまでなかった蛋白尿が出てきました。偶然かなと目を置いて再検査しましたが、やはり続きます。そこで母親に何か薬を飲んでいないことはありませんかと尋ねましたが、飲んでいないとのことでした。それでも腑に落ちないので、とにかく薬でなくても新しく何か飲んでいませんかと聞くと、減肥茶を飲ませていましたということでした。

当時はこれで痩せられるというのがブームで各種の減肥茶がありました。原因はそれしか考えられないので中止してもらいましたら、しばらくして蛋白尿は消えました。あのままにしておけば確実に腎不全になっていました。そのころ関西を中心に「チャイニーズハーブ症候群」と呼ばれる腎不全に至る成分の入ったエセ漢方薬の被害が報告されました。この減肥茶にもその成分が含まれていました。これは「木通」という正しい漢方成分の代わりに全く違う腎毒性のある「関木通」が代用されたことが原因でした。こんなに加減で危険な商品が堂々と売られていたのです。一般的な健康食品として出回っているものにもこういう危険性があり、今でも同様の被害が出ています。特に、中国3千年の歴史とかとなつて売られているものには、こういう危険性が高いということなんです。もちろん、医療用の漢方薬にはそのようなことはないのですが、それでもたくさん副作用はあるのです。漢方外来ではその副作用を見逃さないための血液検査やレントゲン検査も必要となります。

つまり、一般の内服薬と同じような対応が必要なのです。

さらに、ほとんどの漢方薬原料は国産ではありませんから、ある薬学教授は「漢方薬の効果には、その残留農薬の効果も大きい。」とまで言っています。本当かどうかはわかりませんが、やはり体に、より害の少ない農薬を使う国産の原料で作るべきでしょうが、コスト面で折り合わないでしょうから無理ですね。

結論…どんな薬にも副作用は避けられない訳であり、それは漢方薬も例外ではないということです。



ワクチン外来のご案内

例年ですが、今年も8月いっぱい火曜日のワクチン外来はお休みとなります。

一般診療時間内でのワクチン接種はいつも通り行っていただけますので、接種をご希望のかたは診療時間内にお越しください。

またB型肝炎については、8月中は予約なしで接種していただけます。ただし、午前の診療時間内だけ(9時～11時半)となり、水曜日と金曜日の夜診については接種できませんので気をつけてください。

ワクチン接種の時には必ず母子手帳を持って来てください。



発熱時の生活について

夏かぜが流行りだしたこの時期、高い熱が出たり熱が続いたりしている子どもさん多いと思います。

以前にも「ひよこ」で発熱について掲載しましたが、ここでは発熱時の生活などについてもう一度触れておきたいと思います。

★熱がある時の生活は、特に制限はありませんが、食欲がない時に無理にご飯を食べさせる必要はありません。病気の間は子どもが食べたい

物や飲みたい物をあげてください。ただし、「この時には必ず糖分(砂糖)が入った物をあげてください。

お茶や水ばかりだと糖分不足です。まず子どもはぐったりしてしまいます。

あと、熱があっても外にも出してあげてください。(買い物に連れて行くなど)特に家の中ばかりです。ついでに是非外へ出てみてください。その時、子どもの様子がどうかをよく見てください。

お風呂も同じです。機嫌が良ければシャワーをしてあげて大丈夫です。湯船につかるなどの長湯は止めておってくださいね。

★その他

寒がって震えていたり、手足が冷たい時はこれから熱が高くなるので子どもは寒いので温かくしてあげてください。反対に熱が上がると震えもおさまり、暑くなる汗をかいたりします。「このまゝは涼しくして汗をかいたら」にまめに着替えさせてください。

あと、冷えヒタなどのシートや水枕で熱は下がりませんので子どもが嫌がる場合には無理にする必要はありません。(ただし、熱中症にときには必要です。)

*解熱剤はこんな時に使ってください。



- ① 元気がなくて、食べたの飲んだりができない。
- ② すっきり泣いてる。
- ③ コロコロして遊ばない。

「うん」として寝られない

こんな時に解熱剤を使ってあげて、少し楽になったりする時に食べたの飲んだりをさせてあげたり、寝られるようにしてあげてください。

*解熱剤の別の使い方

解熱剤は鎮痛剤いわゆる痛み止めでもあります。ですから、熱がなくても頭痛・のどの痛み・耳が痛い時にも使って楽にしてあげる事も大切です。

(ただし、おなか痛いのには使えません)



(診療所の夏休みの1案内)

8月11日(土曜)～

8月16日(木)まで

右記の期間、診療所はお休みさせていただきます。詳しくはスタッフまでお尋ねください。

祇園祭も終わりの、子どもたちは待ちに待った夏休みですね。親にとっては色々な意味で夏休みは大変かもしれませんね。

診療所ではお父さんやお母さんの診察もしていますので、気軽に受診して下さい。



佐々木